

アオメエソ (めひかり)



生態的特徴等

【生態】

青森県から九州の太平洋岸に分布し、茨城沖では水深 100～300m に生息する。茨城沖での漁獲物に成熟個体は見られず、産卵場は不明で、南方海域で生まれた仔魚が黒潮に乗って運ばれてくると考えられている。

水揚げされるものは1～2歳が主体で、全長は最大 18cm 程度、餌には主にオキアミを食べている。

【漁法と盛漁期】

底曳網で漁期（9月～翌年6月）をとおして周年漁獲され、平潟、大津、久慈漁港などで水揚げされる。本県の市場ではアオメエソのことを「めひかり」と呼んでいる。

【利用】

白身で脂がのっており、唐揚げでよく食される。また、干し魚にしても美味しく食べられる。

資源水準は高位、動向は横ばい傾向

（漁獲量）9月～翌年6月にかけての底びき網の漁期ごとに集計した漁獲量は、H26年までは多くても 100 トン程度であったが、H27 年以降増加傾向となり、H28 年は 663 トンに急増した。その後 300～400 トンまで減少したが、R 4 年に再び増加し、R 5 年は過去最高の 692 トンとなった後、R 6 年は 465 トンに減少した。（図 1）。

※アオメエソの漁獲量は R5 年まで属地で集計していたが、他県での水揚げが増加していることから属人集計に変更した。

（水準と動向）資源水準は、過去の底曳網の漁獲量から計算した CPUE（kg/隻・日）から「高位」、動向は、直近 5 漁期の CPUE の傾向から「横ばい」とした（図 2）。

水準



動向

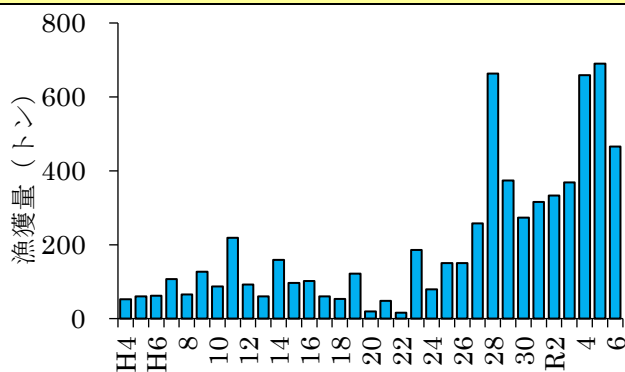
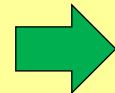


図1 アオメエソの漁獲量(属人、水試システム)

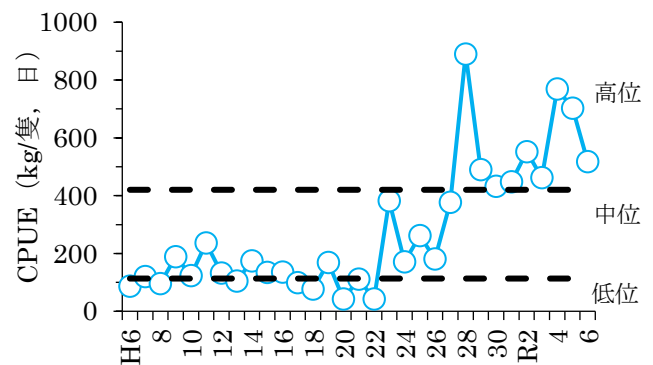


図2 アオメエソのCPUE(沖底+小底 5y 以上)

【全国の漁獲動向】

茨城県以外の主な産地は、千葉県、福島県、愛知県、高知県など。